

第1回三次市総合計画審議会におけるまちづくりの方向性に係る意見・キーワード（参考）

【保健・医療・福祉】

- ・早期発見・早期治療が大切。
- ・小児救急24時間体制をはじめとする医療体制の更なる充実が必要。
- ・生きがいを持って健康に暮らせるという視点が大事。そのためにも、隣近所や仲間を大切にすることが必要。
- ・少子高齢化が進む中でも、住民の意識を高めて、健康長寿をめざすべき。
- ・高齢者をはじめ、健康で暮らせるためには、「つながる」ことが大切な視点。具体的に、どこで、誰が、どうやって進めるのかなどを考えることが必要。

【多文化・共生】

- ・女子スポーツを通じて、国際交流の推進、国際的な人材育成につなげる必要がある。
- ・障害のある方が暮らしやすい環境づくりのため、「誰一人取り残さない」まちづくりをさらに進めるべき。（特にハード面）
- ・外国の方が働きやすいまちづくりを考えることが必要。

【自然環境】

- ・地球温暖化への適応（流域治水や暑さ対策など）が必要。
- ・自然の豊かさを活かして、バイオマス関係、カーボンニュートラルの分野に取り組むことも大切。

【防災・安全】

- ・ソフト面での対策（避難できない人や参加することができない人への対応、声の掛け合い、コミュニティでの避難）をどうしていくかが重要。
- ・農地のダム機能を活かすことが必要。（太陽光発電の設置が進むことで水害につながる可能性があることを考慮すべき）

【子育て・教育】

- ・地域とのつながりにより、地域が一体となって子育てをすることが大切。
- ・障害のある子どもの子育て環境（就学期間も含めて）の充実が必要。
- ・学校に通えない子どもへの対応（ICTの活用など）を考えていくことが必要。
- ・学校へのICT導入後、その活用のフォローが必要。（欠席した子どもが学校と同じように授業を受けられる環境づくりなど）
- ・市外私立中高、県外大学との交流、情報収集できる環境づくりがあったら良いのでは。

【デジタル・DX】

- ・デジタル化が進む中で、新しい働き方への対応を真剣に考えていくことが大切。
- ・デジタル技術の進展に、柔軟に対応できる体制や組織が重要。
- ・物理的な距離への対応として、DX（デジタル技術を社会に浸透させて人々の生活をより良いものへと変革すること）やSX（企業が長期的な持続可能性を重視し、ビジネスの安定だけでなくESG（環境、社会、ガバナンス）を両立する企業経営お行えるよう変革すること）を推進することが、住みやすさへつながるのでは。

【情報発信】

- ・三次の資源を活かした魅力の発信が重要。
- ・様々なチャンネルを活用し、市外・県外・全国に向けて効果的に発信していけば、人口増加につながるのでは。

【働く場所】

- ・働くところが重要。魅力的な企業の誘致、市外へ通勤しやすい道路網、公共交通機関の整備が必要。

【定住】

- ・ どうしたら三次に帰ってくるのか，市外在住者に意見を聞くことができる機会があると良い。
- ・ 人が流動することは仕方がないが，できれば地元で働ける，市外へ出て，第2の人生は故郷で過ごせるコミュニティ作りが必要。
- ・ 子育てをしたい方，若い方，都会よりも田舎が好きだという方に来てもらえるよう，三次は何を残すべきか計画の中で謳うべき。

【つながり】

- ・ 「つながる」ということが重要で，大きなポイント。
- ・ 自然な「つながり」ができれば，様々なことが機能し，住みたいという思いにつながるのでは。
- ・ 団体に入ることだけが「つながり」ではなく，個人同士で気軽に「つながる」ことも大切な視点。
- ・ 愛着度を高めるためには，人との「つながり」，地域の「つながり」が大切。

【まちづくり・賑わい】

- ・ 集落や旧町村部のコミュニティの維持が課題。少子化で学校の維持が懸念。
- ・ コミュニケーションの場づくり，居場所づくりで賑わいを作ることがポイント。
- ・ 年代別に悩みは違うが，それぞれの居場所づくりが大切。
- ・ イベントや祭りの開催だけでなく，小さな組織の活性化による賑わいづくりがあったら良い。
- ・ 三次が楽しい，好きだから帰ってきてくれるまちづくりが大事。

【広域連携】

- ・ 単市の取組だけではなく，県北3市の連携や広島広域都市圏の取組の中で連携して取り組むことが必要。